

6 夢洲まちづくり構想

「夢洲まちづくり構想」より抜粋一部加筆

夢洲の段階的な土地利用

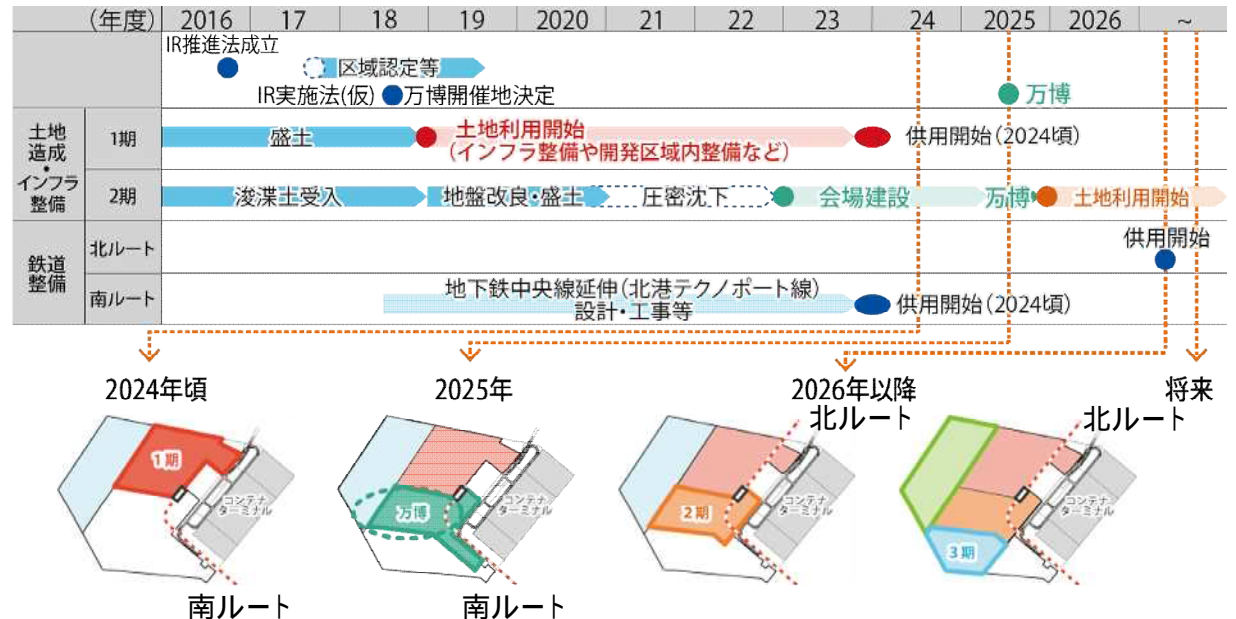


大阪市試算による国際観光拠点の建設・運営における経済的効果(想定)

整備時期	1期(70ha)	~2期(130ha)	~3期(170ha)
集客人口	約1,500万人/年	約2,700万人/年	約3,000万人/年
建設投資額※1	4,300億円	7,350億円	8,240億円
建設投資による経済波及効果※2	7,600億円	13,000億円	14,600億円
雇用創出効果(建設投資)※2	5.1万人	8.8万人	9.8万人
運営による経済波及効果※2	6,900億円/年	9,800億円/年	11,000億円/年
雇用創出効果(運営)※2	8.3万人/年	11.8万人/年	13.2万人/年

※1 建築物の建設費用のみが対象。その他の敷地造成工事、外構工事、設計管理に係る費用及び消費税等は考慮していない。また、公共施設整備は含まない。
 ※2 近畿圏の経済波及効果。雇用創出効果については自営業主、家族従業者含む。

夢洲まちづくりの想定スケジュール



(注) 土地造成の前提条件: 1期は早期土地利用を想定、2期は万博が開催される場合を想定

重点化の考え方

大阪の成長戦略 (2018年改訂版)

「大阪の成長戦略」は、大阪を新たな成長軌道に乗せるため、概ね2020年までの10年間の成長目標を掲げ、2010年（平成22年）12月に策定したもの。大阪府と大阪市共通の戦略として、成長目標を実現するための短期・中期の具体的な取組方向をとりまとめている。

1. 内外の集客力強化

(1) 世界的な創造都市、国際エンターテインメント都市の創出

- ・2025日本万国博覧会の誘致に向けた取組み
- ・世界最高水準のエンターテインメント、MICEなど様々な機能を持つ「統合型リゾート（IR）」の夢洲への立地推進

4. アジア活力の取り組み強化・物流人流インフラの活用

(4) 人流を支える鉄道アクセス・ネットワーク強化

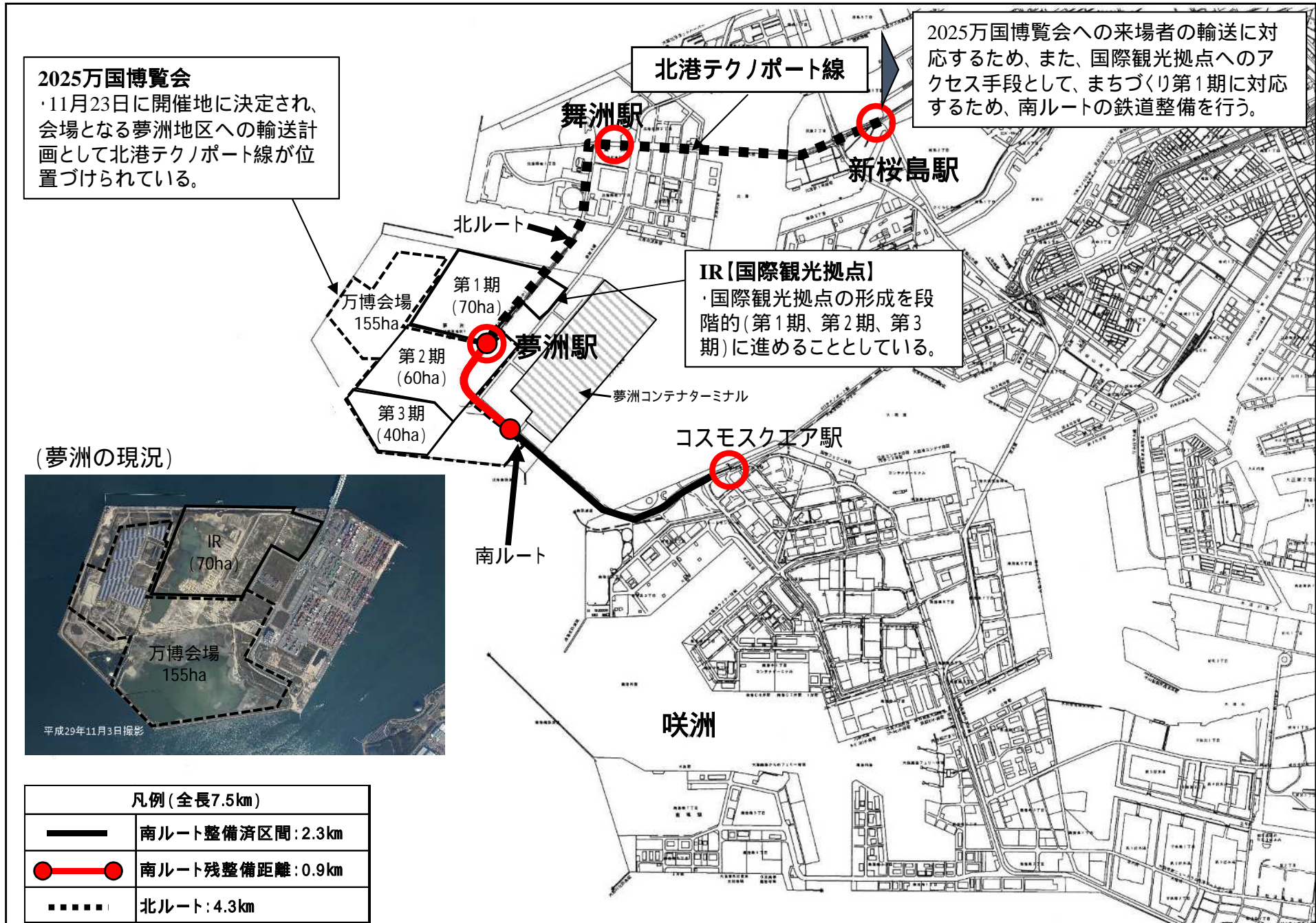
- ・夢洲への地下鉄中央線の延伸（北港テクノポート線）検討（IR・万博に向けた鉄道アクセス整備）



本事業が遅れることによる影響

- ・臨海部の交通需要の増加に対応できないとともに、夢洲の国際物流拠点の円滑な物流を阻害することが懸念される。
- ・また、万国博覧会においても、夢洲地区への輸送計画として北港テクノポート線が位置づけられており、夢洲への来場者の輸送計画に対応できない。

8 今後の進捗の見通し



2025万国博覧会への来場者の輸送に対応するため、また、国際観光拠点へのアクセス手段として、まちづくり第1期に対応するため、南ルートの鉄道整備を行う。

IR【国際観光拠点】
 ・国際観光拠点の形成を段階的(第1期、第2期、第3期)に進めることとしている。

(夢洲の現況)

